



「ぼうさいこくたい2025 in 新潟」において、
「新総合防災情報システム(SOBO-WEB)アイデアソン2025」
を開催しました。



2024年4月に運用を開始した「新総合防災情報システム」(SOBO-WEB)は、各機関から収集・集約した情報を地図上に重ね合わせて表示することができるシステムです。

「新総合防災情報システム(SOBO-WEB)アイデアソン2025」では、データをどのように掛け合わせれば、各機関の災害対応に役立つのか、また今後ますます重要になると予想されるAIや予測技術などの活用も踏まえて、システムを効果的に利活用していくためのアイデアを募集し、計20件の御応募をいただきました。その中から一次審査を通過した6チームの皆様にご発表いただき、防災担当大臣賞の受賞者を決定しました。



【開会挨拶】内閣府特命担当大臣(防災) 坂井 学

災害対応においては必要な情報を一元的に把握できる仕組みが重要であり、SOBO-WEBを運用しております。

本日のアイデアソンでは、SOBO-WEBの更なる機能強化に向け、全国の皆さまからアイデアを募集いたしました。

こうした取り組みは、単なる技術開発にとどまらず、現場の声を反映し、実際の災害対応に役立つ仕組みを構築するうえで、非常に意義深いものと考えております。

新総合防災情報システム(SOBO-WEB) アイデアソン2025 <発表6チーム>



各チームから5分間の熱意溢れるプレゼンテーションが行われました。会場は立ち見が出るほどの大盛況で、メモを取りながら聞き入る姿も見られました。

Rinnai

リンナイ株式会社 イノベーションセンター
デジタル&ソリューション推進室

「災害時の水 /
ガス停止エリア特定」



浜松市 危機管理課

「AIを活用した避難所避難者数の
推移と必要物資の予測」

SoftBank ソフトバンク株式会社 法務・コーポレート
ガバナンス本部 リスク管理室 リスク対策部 リスク対策課

「止めない通信、救ういのち。
AIで、通信復旧支援
× 支障の先読み」



東京ガスネットワーク株式会社
東部事業部

「AI×リアルタイムデータで
実現する被害軽減と迅速復旧」



一般社団法人AZ-COMネットワーク
AZ-COM桃太郎

「一元管理による
支援物資輸送の効率化」



小樽市
総務部災害対策室

「災害対策本部の状況判断に
資するSOBO-WEBの活用案」



Rinnai

リンナイ株式会社 イノベーションセンター
デジタル&ソリューション推進室

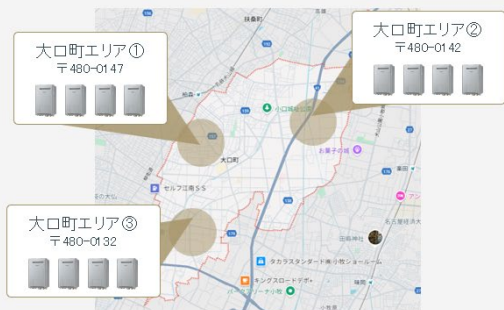
「災害時の水 / ガス停止エリア特定」



機 CONFIDENTIAL

断水発生エリアを郵便番号ごとに特定

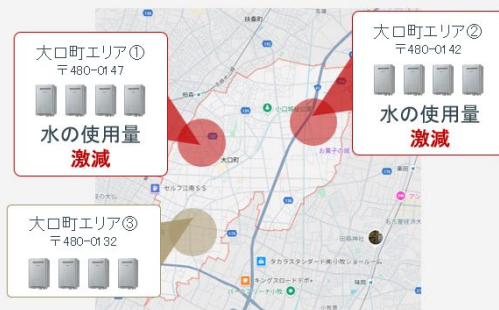
災害発生前



いずれのエリアの給湯器も水使用量をカウント

▶ 断水の被害は発生していない

災害発生後



①②のエリアで水使用量が激減

▶ 大町エリア①②は断水の被害あり

- ・ 災害で水遮断が発生すると広範囲に渡り、複数の給湯器水使用量が激減し郵便番号ごとに断水エリアが絞り込める。
- ・ SOBO-WEBの交通情報/避難場所/医業機関などのデータと組合せて、断水復旧作業の優先順位付けに活用できないか。

©Rinnai Corporation

4

【発表内容】

給湯器のIoTデータ(郵便番号、給湯器のリアルタイムデータ/水の使用量)を使用することで、断水・ガス遮断エリアの郵便番号単位での絞り込みや、SOBO-WEB上の避難場所等のデータと掛け合わせることで復旧作業の優先順位付けが可能になると考えます。



【選考委員コメント】

内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(防災デジタル・物資支援担当)
桐部 仁志

リアルタイムデータを使用することで、より細かい範囲でインフラの支障が把握できるのはとても興味深い提案でした。データ取得に必要なリンナイアプリの利用率向上も重要と思いました。

【選考委員コメント】

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
防災情報研究部門 副研究部門長 田口 仁

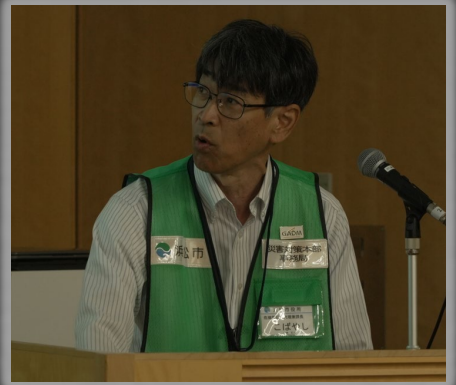
給湯器のように日頃使っているものが災害時に役立つというフェーズフリーの概念は独創的と思いました。また、給湯器等は色々なメーカーがあるので、業界標準の形を作れたらよいと思いました。





浜松市 危機管理課

「AIを活用した避難所避難者数の推移と必要物資の予測」



【発表内容】

能登半島地震の支援経験を基に、避難者への効率的な支援を提案します。具体的には、避難所や人流データ、道路・ライフライン被害を掛け合わせて、それをAI分析することで、避難所避難者数の実測値から今後の推移や必要な物資量を予測し、先手を打った救援物資の調達を実現することができます。



【選考委員コメント】

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
社会防災研究領域 災害過程研究部門 客員研究員 宇田川 真之

救援物資の需要を予測し先手を打つことは重要です。需要予測のアルゴリズムやAIの開発・精度向上に、SOBO-WEB等に今後の災害時に蓄積されていく各種のデータが活用できると思いました。

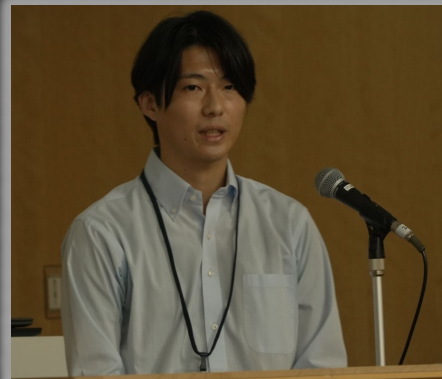
【審査員コメント】

国立大学法人 静岡大学
防災総合センター 客員教授 岩田 孝仁

実態に即して推計をしながら進めるというのはこれまで人を介して議論しており、AI活用は非常に有用です。AIの精度を上げるためにも、様々な自治体で早く実用化することが重要と思いました。



SoftBank ソフトバンク株式会社 法務・コーポレート
ガバナンス本部 リスク管理室 リスク対策部 リスク対策課
**「止めない通信、救ういのち。
AIで、通信復旧支援
× 支障の先読み」**



アイデア概要

SOBO-WEBの災害データと通信キャリアのデータ
「AI予測」を掛け合わせ、通信支障の被害を抑える



EEI情報
災害一般情報



通信情報
人流データ



SOBO-WEB × 通信キャリア × AI

3

【発表内容】

通信支障・人流データと重要施設のデータを掛け合わせてAIによるスコアリングを行うことで、復旧の優先順位付けが可能となります。また、過去の災害情報と通信支障発生状況をAIに学習させることで、数時間先の通信支障リスクを予測し、移動基地局車など代替手段の先回り配置が可能となります。



【選考委員コメント】

内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(防災デジタル・物資支援担当)
桐部 仁志

通信は災害対応においても不可欠なインフラであり、この優先順位付けは非常に意義のある提案です。過去の災害データを使用する等、しっかりとした精度でのAI実装が重要と思いました。

【選考委員コメント】

国立大学法人 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター センター長
/クライシスマネジメント機構 副機構長 教授 鶴成 悦久

情報インフラは現代社会において重要で、自治体からも情報が求められています。行政や市民の皆さまからすると、どの程度で復旧するのかといった予測を共有するということも重要だと思いました。



「AI×リアルタイムデータで 実現する被害軽減と迅速復旧」



2. SOBO-WEBアイデアソンの提案概要

【テーマ名】 AI×リアルタイムデータで実現する被害軽減と迅速復旧

目 的

『火災の延焼抑止による人的・物的被害の最小化』と『ライフラインの早期復旧』による **災害被害の軽減**

背 景

- 災害被害を軽減させるためには、津波や火災などの**災害直後の初動段階で人命や財産などを守る「初動フェーズ」**と、避難所生活や復旧活動などの**復旧段階で人命や健康などを守る「復旧フェーズ」**の両方の視点が必要であると考えました。
- 「初動フェーズ」では二次災害防止のための被害エリアへのガス供給停止の検討にSOBO-WEBが有用であることに着目し、AIとリアルタイムデータを掛け合わせることで「大規模火災による被害の最小化」のアイデアに着目しました。
- 「復旧フェーズ」では東京ガスネットワークが経験してきた災害復旧応援で明らかになった課題を解決するためのアイデアも付加し、初動フェーズと復旧フェーズの両方の視点を持つ東京ガスネットワークならではのアイデアを提案します。

発災

初動フェーズ

復旧フェーズ

■ AI × EEI情報による「火災延焼範囲シミュレーション」■

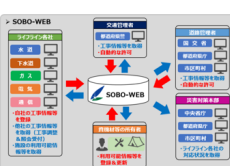


提案ポイント



火災の延焼範囲をシミュレーションすることで火災リスクの「見える化」「共有化」を図ることができ、関係機関が一体となった早急な被害軽減活動に寄与！

■ 「復旧情報」の共有によるライフライン復旧の円滑化 ■ ■ 国規模で実現する資機材等の貸借システムの構築 ■



提案ポイント

- 各ライフラインの復旧工事の計画を登録することで、オンライン上で必要な手続きや調整が完結！
- 現地調達に苦労していた資機材等の確保が容易に可能！

【発表内容】

初動期では、火災と周辺状況データをAI解析することで、延焼被害を予測して共有し、避難指示や延焼抑制に向けた各機関の連携が円滑化されます。復旧期では、各ライフラインの復旧情報を共有することで、申請手続のオンライン化や、AI予測による優先順位付けを基に工程管理等が実現できます。

【選考委員コメント】

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
防災情報研究部門 副研究部門長 田口 仁

同時多発的に起きる火災を把握できるか等の難しさもありますが、現場のニーズを、しっかりと具体的な運用イメージと共に示して頂いたことは、非常に意義のあるアイデアだと思いました。

【選考委員コメント】

国立大学法人 静岡大学
防災総合センター 客員教授 岩田 孝仁

地上・地下に様々あるライフラインにおいて、復旧の優先順位付けは重要だと思います。特に復旧工程の調整は最も難儀するところかと思しますので、ぜひ実用化していただきたいと思いました。



「一元管理による 支援物資輸送の効率化」



SOBO-WEB表記イメージ



【発表内容】

支援物資輸送には様々な主体が関わるため、被害と拠点情報、車両位置情報を活用した一元管理を提案します。具体的には、車両情報を見える化することで、配送先に合わせた各主体間での車両マッチング・相互協力や、AIを活用することで最適ルート提案や物資の需給マッチングも可能となります。

【選考委員コメント】

内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(防災デジタル・物資支援担当)
桐部 仁志

物資支援における課題解決の提案として、特に車両マッチングは興味深い提案だと思いました。運送業界は産業構造的に数多くの企業が活躍されており、業界内での連携ができると有効と考えます。

【選考委員コメント】

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
社会防災研究領域 災害過程研究部門 客員研究員 宇田川 真之

国の運用するSOBO-WEB等のシステムに、民間物流事業者が所有されている車両位置情報や物資のRFIDのデータなどがうまく官民連携し、1+1が3になるような良い仕組みになればと思いました。





小樽市 総務部災害対策室

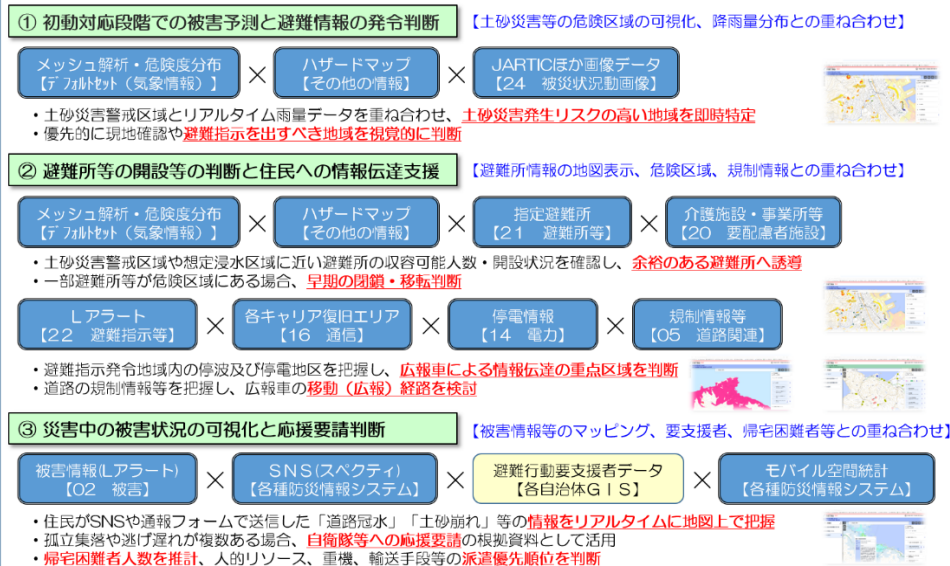
「災害対策本部の状況判断に 資するSOBO-WEBの活用案」



災害対策本部の状況判断に資するSOBO-WEBの活用案の概要



凡 例： SOBO-WEB閲覧可能データ 他のシステムデータ 小樽市総務部災害対策室



【発表内容】

土砂災害警戒区域等の情報とリアルタイムデータからリスクが高い地域を特定した効率的な避難指示、停電地区や交通情報による広報車の経路検討、モバイル空間統計を用いた帰宅困難者人数の推計による応援要請の判断等、情報の可視化と統合により、災害対策本部の状況判断が可能となります。

【選考委員コメント】

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
防災情報研究部門 副研究部門長 田口 仁

EEI情報の組み合わせについて具体的な提案でイメージできました。SOBO-WEBは閲覧だけでなく共有機能もありますので、自分たちの情報を掛け合わせた活用へ発展させてほしいです。

【選考委員コメント】

国立大学法人 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター センター長
/クライシスマネジメント機構 副機構長 教授 鶴成 悦久

具体的なイメージで、欲しいデータも提案いただきました。今回のようなデータの重ね合わせに加え、重みづけをすることも重要で、最終的にどう見えるのか、実際に使っていただければと思いました。



選考委員会による審査を経て、**防災担当大臣賞**の受賞者を決定しました！



🏆 最優秀賞 🏆

Rinnai

リンナイ株式会社 イノベーションセンター
デジタル&ソリューション推進室

**「災害時の水 /
ガス停止エリア特定」**

【受賞者コメント】

このような賞をいただけるとは思っていませんでした。社内でも、今回のアイデアを実現できるよう進めてまいりたいと思います！

優秀賞



東京ガスネットワーク株式会社
東部事業部

**「AI×リアルタイムデータで
実現する被害軽減と迅速復旧」**

【受賞者コメント】

今回ご評価いただいたアイデアが、内閣府や関係機関のお力によって実運用されることを期待しております！



優秀賞



小樽市
総務部災害対策室

**「災害対策本部の状況判断に
資するSOBO-WEBの活用案」**

【受賞者コメント】

発表だけにとどまらず、本当の災害が起きたときにしっかり対処できるよう、日々精進してまいります！



優秀賞



一般社団法人AZ-COMネットワーク
AZ-COM桃太郎

**「一元管理による
支援物資輸送の効率化」**

【受賞者コメント】

指定公として引き続き減災に取り組み、皆さまのアイデアともコラボするような形となれば最高だと思います！



【選考委員講評】

内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(防災デジタル・物資支援担当)
桐部 仁志

全体を通して積極的なご提案が多く、皆様の発表を大変興味深く聞かせていただきました。災害対策におけるSOBO-WEBの可能性を改めて私たちも認識するよい機会だったと思います。来年も楽しみにしたいと思います。ありがとうございました。



【選考委員講評】

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
防災情報研究部門 副研究部門長 田口 仁

活用だけでなく、共有する情報についても新しいアイデアが出てきたのは良かったと思いました。今後、防災を目的としていない色々なセンサーを使って災害・被害を浮き彫りにできるかもしれません。また組織を超えた連携に繋がるアイデアが出る中で、国のコーディネートや後押しができるの良いのではと思いました。



【選考委員講評】

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
社会防災研究領域 災害過程研究部門 客員研究員 宇田川 真之

情報共有基盤としてのSOBO-WEBの一層の充実を図るアイデアとともに、基盤を活用した実務者向けのアプリケーションのアイデアもありました。予測技術やAIを活用したアプリケーション開発のためには、災害発生時の実績データを蓄積していくことが大切ですので、基盤としてのSOBO-WEBの重要性も改めて感じました。



【選考委員講評】

国立大学法人 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター センター長
/クライシスマネジメント機構 副機構長 教授 鶴成 悦久

データを活用して災害対応するということは、その先に国民がいるということなので、企業・行政の課題解決の中に被災者一人ひとりの目線も取り入れていくことが重要です。そういったところを見つめながら本システムを活用して、ぜひアイデアを実装化していただければと思います。



【選考委員講評】

国立大学法人 静岡大学
防災総合センター 客員教授 岩田 孝仁

AIの提案もありましたが、AIというのは答えがあるわけではなくて、実用化することによってAIの機能が向上していくものです。なので今日の提案を早く実現していただければと思います。また、もう一つ重要な情報共有の部分も、企業・行政等の各機関が垣根を超えて共有するようなアイデアもあり良かったと思います。



【閉会挨拶】内閣府特命担当大臣(防災) 坂井 学

今回ご提案いただいたアイデアを、どうやって実装するか、現場で活用するかが重要です。我々内閣府においてもすぐ実装できるもの、今後検討を重ねていくものもありますが、どちらにしても活用目指して頑張ってまいりますので、皆様にもお力をいただければと思っております。

また人命救助・被災者支援・インフラ復旧等の災害対応力を高めていくためには、防災デジタルプラットフォームが必要です。今後とも幅広いご協力をお願い申し上げます。



開催概要



名称 「新総合防災情報システム(SOBO-WEB)アイデアソン2025」

日時 2025年9月7日(日)10:30~12:00

場所 朱鷺メッセ 2階 201A会議室

主催 内閣府(防災デジタル・物資支援担当)

最優秀賞 リンナイ株式会社 イノベーションセンター デジタル&ソリューション推進室

優秀賞 東京ガスネットワーク株式会社 東部事業部

優秀賞 小樽市 総務部 災害対策室

優秀賞 一般社団法人AZ-COMネットワーク (チーム名:AZ-COM桃太郎)

参加記念 浜松市 危機管理課

参加記念 ソフトバンク株式会社 総務・コーポレートガバナンス本部
リスク管理室 リスク対策部 リスク対策課

審査員 桐部 仁志 内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(防災デジタル・物資支援担当)
田口 仁 防災科学技術研究所 防災情報研究部門 副研究部門長
宇田川 真之 防災科学技術研究所 災害過程研究部門 客員研究員
鶴成 悦久 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター長
/クライシスマネジメント機構 副機構長 教授
岩田 孝仁 静岡大学 防災総合センター 客員教授